

<Press Release>

2026年3月3日

Photosynth がフィジカル AI 領域に本格参入、 研究開発拠点「Photosynth Physical AI Lab」が稼働開始

～ 無人化・省人化産業を支える業務支援ロボットの社会実装を目指す ～

株式会社 Photosynth（東京都港区、代表取締役社長 河瀬航大、以下フォトシンス）は、新規事業の創出を目指して新たにフィジカル AI 領域に参入するとともに、その研究開発拠点となる「Photosynth Physical AI Lab（フォトシンス・フィジカル AI・ラボ）」（東京都港区）を開設し、稼働を開始しました。

フォトシンスでは、フィジカル AI 領域への参入と研究開発拠点の開設により、「人手に依存しない、自律型の物理空間で、社会を自由化する。」というビジョンを支える、無人化・省人化ソリューションのための業務支援ロボットなどの研究開発とその社会実装を目指します。



Photosynth Physical AI Lab



Photosynth Physical AI Lab が入居する拠点の様子

■フィジカル AI が求められている背景

日本では、少子高齢化に伴う人口減少による人手不足が深刻なビジネス課題となっています。統計では、生産年齢人口（15～64歳）は、2065年には約4,500万人になると推計されており、2020年比で約2,900万人減少する見込みで(*1)、特に小売業やサービス業、物流などの物理的な業務を伴う業界では、人手不足による機会損失やサービス品質の低下が大きな課題となっています。そして、近年著しい進化を遂げているAIとロボティクスなどを組み合わせたフィジカルAIが、これらの物理的な制約を伴う課題を解決する新たなソリューションとして期待されています。

(*1) 出典：内閣府「令和4年版高齢社会白書」

■フィジカル AI 開発で、無人化・省人化のためのロボティクスの社会実装を加速

フォトシンスは、この少子高齢化に伴う人手不足という社会課題に対して、「人手に依存しない、自律型の物理空間で、社会を自由化する。」というビジョンを掲げ、あらゆる物理空間を無人化・省人化する「Akerun 入退室管理システム」（以下、Akerun）や施設運営 BPaaS「Migakun」をはじめとした空間管理ソリューションを提供しています。

また、HESaaS（Hardware Enabled Software as a Service）モデルで提供されるAkerunの開発を通じて、ハードウェア、組込み、AIを含むソフトウェア、製造までを網羅するフルスタックの開発体制に強みを有しており、さらに法人向け事業で培ったハードウェア／ソフトウェア両面での信頼性や安定性で豊富な実績を有しています。

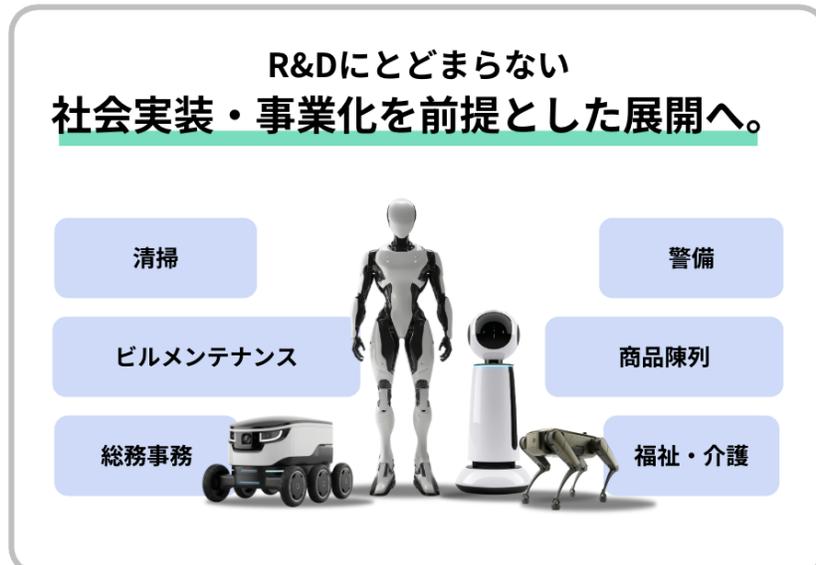
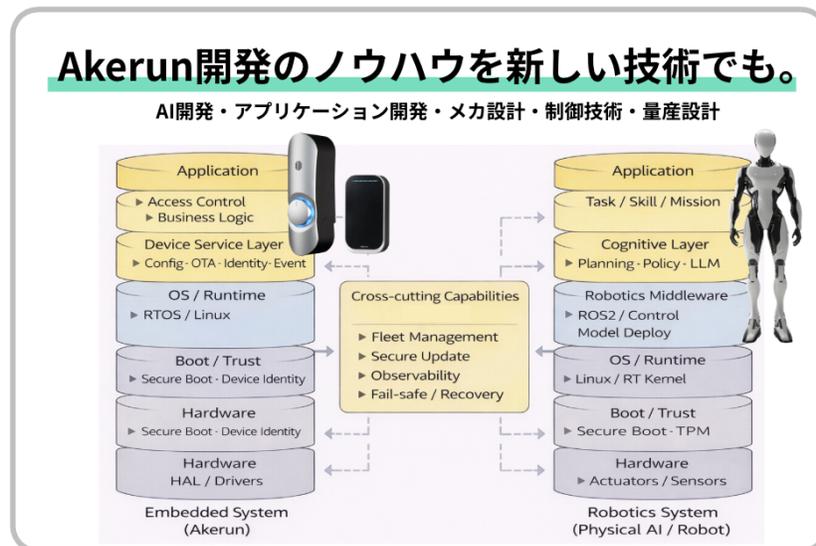
今回、フォトシンスでは、このフルスタックの開発体制を基盤に、無人化・省人化産業における有望なソリューションとなるフィジカルAIの研究開発と、将来的にはその社会実装までを見据えて、新たにフィジカルAI開発への参入を決定しました。

■「Photosynth Physical AI Lab」における取り組み

フォトシンスが新たに開設した「Photosynth Physical AI Lab」では、まずアプリケーションレイヤーにおけるAIを中心とした開発から着手し、その後、フルスタックの開発基盤を活用したハードウェア／ソフトウェアの開発を順次進める計画です。また、開発するフィジカル

AI は、清掃、ビルメンテナンス、総務事務、警備、商品陳列、そして福祉・介護などを担う業務支援ロボットなどを想定し、研究開発だけにとどまらない、社会実装までを見据えた取り組みを推進する計画です。

なお、この「Photosynth Physical AI Lab」の所長には、Chief Technology Officer である渡邊 大輝が就任します。



Photosynth Physical AI Lab の開発領域や開発対象のイメージ

<Photosynth Physical AI Lab の概要>

- 名称： Photosynth Physical AI Lab（フォトシンス・フィジカル AI・ラボ）
所在地： 東京都港区港南
所長： 渡邊 大輝（兼 株式会社 Photosynth Chief Technology Officer（CTO））
業務内容： サービスロボットや業務支援ロボットなどのフィジカル AI の研究開発

フォトシンスは、フィジカル AI 領域への参入と研究開発拠点の開設を通じて、「つながるモノづくりで感動体験を未来に組み込む」というミッションに加え、新たに掲げる「人手に依存しない、自律型の物理空間で、社会を自由化する。」のビジョンのもと、少子高齢化に伴う人手不足という大きな社会課題を解決するための無人化・省人化ソリューションの開発を今後も加速します。

【株式会社 Photosynth（フォトシンス）について】

「つながるモノづくりで感動体験を未来に組み込む」をミッションに掲げ、人手不足や労働力人口の減少などの社会課題の解決を目指して、既存のドアにスマートロックを後付け設置するだけで鍵をクラウド管理できる「Akerun 入退室管理システム」をはじめとした Akerun ブランドのオフィス／住宅向けのクラウド型 IoT サービスに加えて、様々な空間の管理運営の効率化を支援する施設運営 BPaaS サービス「Migakun（ミガクン）」や無人化・省人化に特化したクラウド型顧客管理・決済システム「fixU（フィックスユー）」を子会社を通じて提供しています。オフィスや商業施設などあらゆる物理空間における人手不足の解消や無人化／省人化を実現する様々なサービスにより、規模を問わないあらゆる業種、業態の企業の課題解決を支援します。

<https://photosynth.co.jp/>

<本件に関する報道関係者のお問い合わせ先>

株式会社 Photosynth
広報
pr@photosynth.co.jp